

たはら 歴史探訪

TAHARA History Inquiry Club

クラブ 其の88

カミの山から見つかった鏡
 ～ 亀山町石堂山経塚 ～

愛知県教育会発刊の『尾三文化史談』(昭和6～11年)という雑誌を見ていたところ、気になる記事がありました。それは田原市出身の伊奈森太郎が記した「福江町の信仰遺蹟」というレポートです。特に興味を持ったのは亀山町の石堂山のメンヒル(先史時代の巨石記念物・立石)の探索です。文には高さ二間、幅三間もある大岩を、鳥居龍蔵が亀

山のメンヒル」と称したとしてい
 す。鳥居は当時の考古学、民族学の
 日本の大家で、昭和4年1月に渥美
 半島に調査に訪れています。

今は周囲が茂ってよく見えま
 せんが、その岩は人工的というより、
 自然のものと云えます。しかし、そ
 の姿からは信仰的な力を感じ取るこ
 とができます。石の塔の形をしてい
 たから「石塔山」とも呼ばれている
 ため、いずれにしても信仰に深くか
 かわりのある地名でしょう。

さて、この石堂山からは鏡が見つ
 かっています。言い伝えによると計
 7、8枚見つかったと言われており、
 そのうち最も状態の良い一枚が享保

11年(1726)に豊島神社に奉納さ
 れました。その鏡が見つかった状況
 から、経塚だつた可能性があります。

鏡は直径10・9cm白銅製で、平安
 時代のもので考えられます。現在の
 鏡は、形を映すだけのものですが、
 昔は霊的な力が期待されたもので
 す。また、金属の鏡は常に磨かなけ
 れば輝きを保てないので、鏡と人との
 関係は昔と今とは比べ物にならな
 いほど深いものでした。

この鏡は、『秋薄飛禽鏡』という
 名前がつけられています。その名
 のとおり円形の区画に八ギとススキ
 を中心に配し、細通しの突起のまわ
 りに、2羽の鳥が戯れながら飛んで
 います。鳥は中国的なおめでたい文



はたすすきひきんきょう 秋薄飛禽鏡(田原市指定文化財)

様ですが、ススキ、ハ
 ギなどは日本的な文様
 です。単純化された線
 ですが、先に紹介した
 「秋草文壺」が描く花
 鳥画の世界と同じもの
 と言えるのです。保存
 状態も大変よく、現在
 も神秘的な輝きを失っ
 ていません。

さて、亀山の由来に
 ついては、『渥美町史』
 には「カミ(神)山」と



亀山町「石堂山」

「天白川上流の蓬萊の地」を示すもの
 の2説が紹介されています。亀自体
 にも霊的な意味合いがあり、聖地と
 しての名を由来としたものでしょう。
 伊良湖沖の「神島」は、伊勢湾の海
 上交通の安全を「カミ」に願った祭
 りが行われた「カミ」の島です。こ
 の「カミ島」に通じる「カミ山」も
 渥美半島の歴史の謎を解く重要な場
 所です。この「カミ」のいます山、
 石堂山に経塚が作られ、鏡を埋めた
 ことも納得できるわけです。
 ちなみに、この鏡は市指定文化財
 となっています。(増山)

- 1 一間は約1.8m
- 2 広報たはら3月号「たはら歴史探訪クラブ」其の84参照

文化振興課

23局3635 FAX 22局3811